

## 県域の状況から見た都道府県立図書館

竹内 真子

都道府県立図書館の役割は、これまで市町村立図書館との関係性から検討され、特に市町村立図書館への支援がその主要な役割として認識されてきた。しかし、2000年代以降、この役割の再考が進められ、現在もその議論が継続している。都道府県立図書館は、社会環境の変化に対応し、県域の状況に即した事業やサービスを展開する必要があるが、実際に提供されているサービスの体系的な整理は十分に行われていない。本研究では、都道府県立図書館が重視する事業・サービスの実態を解明し、県域の状況との関連を分析することで、今後の都道府県立図書館の役割の議論に貢献することを目指す。

本研究の目的は、都道府県立図書館が設置されている県域の状況の違いによって、都道府県立図書館が重視する機能・サービスにはどのような違いが生じるかを明らかにすることである。研究課題として、(1)都道府県立図書館の行う直接サービスではどのような違いが見られるか、(2)都道府県立図書館の行う間接サービスにはどのような違いが見られるか、(3)都道府県立図書館の行う「発展への支援」についての事業にはどのような違いが見られるか、(4)都道府県立図書館が重視する機能・サービスの違いが生じる原因には何が考えられるかの4点を設定した。

研究方法は、都道府県立図書館が公開している資料を用いた事例研究とした。「県内市町村立図書館の状況」と「県域の状況」を表す指標を用いた階層クラスタ分析をそれぞれ実施し、その結果をもとに福岡、長野、東京、滋賀、鳥取、北海道、山形、沖縄、神奈川を分析対象とした。これらの都道府県が設置した都道府県立図書館が重視する機能・サービスを都道府県立図書館の「基本方針」「中期計画」をもとに対象資料から抽出し、新出(2006)で示された「県立図書館の三つのベクトル」:「直接サービス」「間接サービス」「発展への支援」をもとに分析し、その後、市町村立図書館の状況を含む都道府県の状況からサービスが重視されている要因について考察した。

研究の結果、都道府県立図書館が提供するサービスには、各都道府県の市町村立図書館の状況、産業・経済状況、さらには都道府県立図書館の立地といった要因が影響しており、それぞれの都道府県において特徴的なサービスが選択・提供されていることが明らかとなった。例えば、利用者が図書館にアクセスしにくい地域では、非来館型のサービスが重視される傾向がみられた。また、類似した県域の状況を持つ都道府県では共通するサービスが提供される場合もあったが、完全に同一のサービスが選択されることはなかった。

このことから、都道府県立図書館は、市町村立図書館を含む県域の影響だけでなく、他の多様な要因からサービス・事業を選択、提供していることが示唆された。

(指導教員 小泉 公乃)